

“植物を暮らしに活かして 持続可能な農園を目指す”



伊藤 香菜子（大分市）
令和2年就農
和草ハーブの生産・加工



就農のきっかけと現在の取組

イギリスに留学した際、ホストファミリーが庭のハーブをお茶や料理に使っているのを見て、生活に身近なハーブの存在を知り、趣味としてハーブ栽培を20年以上続けてきました。花屋での勤務の後、フラワーコーディネーターとして独立し結婚式の装飾や店舗のディスプレイなどを手掛けていましたが、コロナ禍で結婚式などの仕事が減少したこともあり、好きなハーブを仕事にしたいと新規就農を決めました。大分市内の10年以上耕作放棄地であった畑40aを借りて、ハーブを栽培しています。農薬、肥料は使わず、耕起もしない、雑草を資源として活用し、農地の土壌を育てる不耕起草生栽培に取り組み、土壌生物との共存、雑草との共生で持続可能な栽培を大切にしています。

植物はストレスを与えると「フィトケミカル(※)」が増える傾向があり、自然栽培している当園のハーブは香りや味が強いと試食した料理人やバイヤーからは高評価をいただいています。ハーブは収穫して、自宅の加工場で乾燥、ブレンド、包装しています。5種類のハーブティーは、味、香りが良いのはもちろん、カップの中で花びらが開く見た目も可愛いお茶になっています。

※フィトケミカルとは、植物が紫外線や昆虫、腐敗やウイルスといったさまざまな脅威から自分の身を守るために作り出した自己防衛物質「苦み・渋み・辛み・色素・香り」などの成分。

今後の展望と皆さんへ一言

将来的には、ハーブや植物が身近にある生活を提案していきたいです。ロシアにおける菜園付き別荘「ダーチャ」のような古民家でのシェアファームで、日々の忙しい生活から離れ、リラックスすることで疲れを癒す場所「リトリート施設」を目指しています。植物を通して、人と地球に優しい暮らしを考えましょう。



令和5年7月作成

大分県女性起業家創出促進事業

大分県は、女性起業家を支援するプログラムを2017年から行っています。様々な伴走支援を行い、企業などとの事業連携の実現といったロールモデル創出が目的です。伊藤さんはこの事業の第1回目のファイナリストのおひとりです。事業の詳細は右のQRコードからご覧ください。

大分県女性起業家創出促進事業

